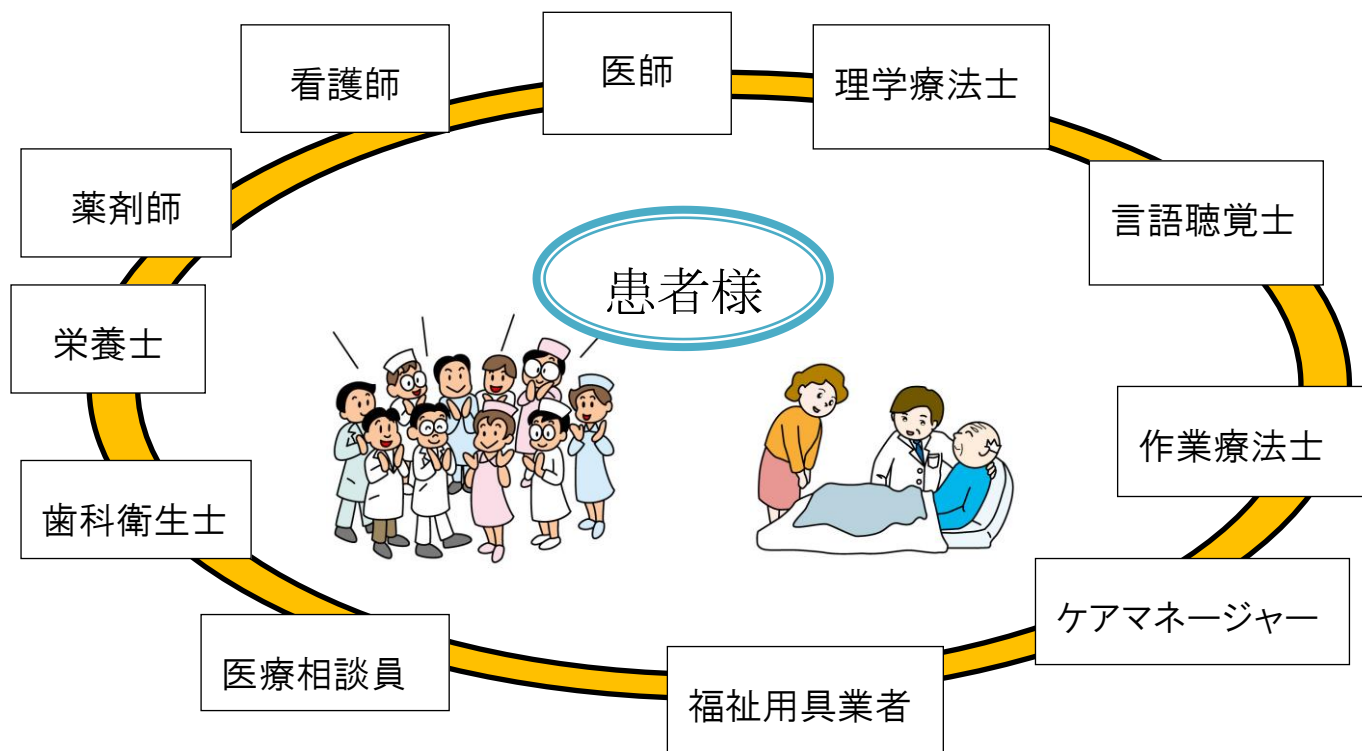


地域包括ケア病棟のリハビリテーション

■地域包括ケア病棟とは…

急性期治療を経過し、在宅復帰に向け、住み慣れた土地に在宅復帰支援を行うための病棟です。リハビリテーション技術科では理学療法士・作業療法士・言語聴覚士を病棟配属とし、チーム医療のみならず介護分野との多職種連携を強化しています。



●主治医、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、医療相談員、薬剤師、栄養士、歯科衛生士、ケアマネージャー、福祉用具業者等のチームで連携、支援していきます。

→カンファレンスの開催:

必要に応じて、多職種でのカンファレンスを開催して退院後の生活を見据えた上で入院中の対応や退院後の事について適宜話し合いをしています。

■地域包括ケア病棟の様子

急性期病室と異なり、広い空間でゆったりと自宅に帰る準備やケアが可能です。

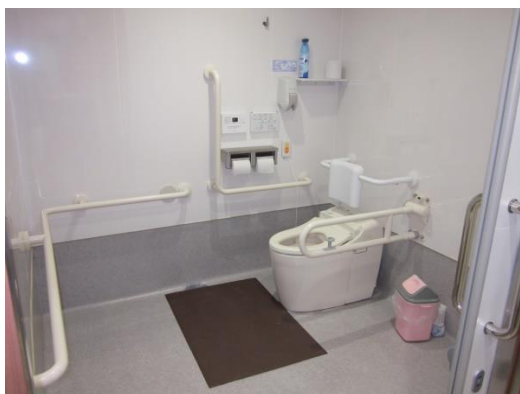
【病室】



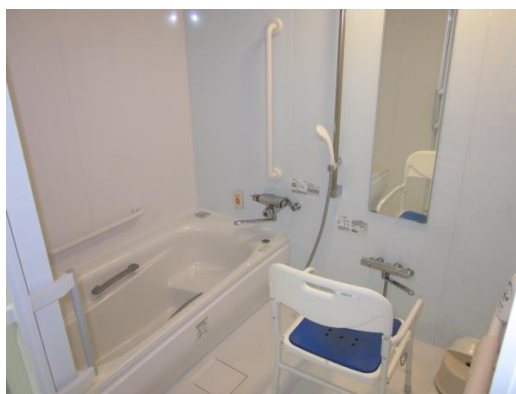
【布団での生活を想定した低床ベッドの病室】



【病棟トイレ】



【自宅を想定した病棟の浴室】



■リハビリスタッフの介入

自宅退院にむけての病棟であるため、それぞれの患者様の身体状態や家屋状況に合わせたリハビリを提供していきます。それぞれ家庭での生活環境も異なります。御自宅で日常生活を送るうえで個人に合わせた訓練を取り入れています。そのためにはチームでの連携や情報収集をしっかりと行い把握し、関わることが大切になります。

例えば、「寝室からトイレまでの距離がどれくらいか」や「自宅の階段は手すりが右側にあるからリハビリ場面でも右側の手すりでも練習していこう」等、生活環境に沿った練習もしています。また家族の方等の介護者の方に対しても、必要に応じて介助方法の具体的なアドバイスもしていきます。

場合によっては実際に家屋調査を行い、患者様の生活が安全で安心して送れるように地域のケアマネージャーや福祉用具業者、病棟スタッフ共チームで連携し支援していきます。

また入院中に自宅に外出・外泊をし、安心して退院できるように支援しています。入院中に外出泊をすることで問題点があればリハスタッフ等に相談し、訓練でできないことを練習、指導をしていき問題点や不安の解消に繋がると思います。練習のみでなく福祉用具の適切な指導も行い、入院中から生活用品をレンタルしてなるべく生活環境と近い環境を作り練習もしていきます。

■アンケート結果(H27)

実際の患者様の意見ではありますが、意見に個人差はあります。一所見として参考にしてください。

Q.病室や設備はいかがでしたか。

- A. きれいで広い、ゆったりしている、明るい
洗面、トイレ、浴室も良かった。設備が使いやすかった
など

Q.リハビリスタッフの対応はいかがでしたか。

- A. とても親切で自分も頑張ろうと思えた
自分にあった対応をしてくれた、体調に合わせてくれた
楽しくリハビリができ、自分も他の人も元気をもらえた
など

Q.安心して退院を迎えることができましたか。

- A. 入院前は不安だったが入院後の対応に好感がもてた
家庭生活のアドバイスがあり安心できた
など

Q.包括ケア病棟に来て良かったですか。

- A. 気持ちに余裕ができた
広く過ごしやすいためリハビリがしやすかった
元気に動けるようになった
など